

集中治療室（ICU）増改築工事完成について



医療局長兼麻酔科主任診療部長兼栄養科長
吉川大輔

集中治療室（ICU）は、一般の病棟では管理するのが難しい重症の患者さんを、24時間体制で治療する施設です。呼吸・循環・代謝をはじめとする急性の機能不全の患者さん、大きな手術を受けた患者さんに、強力かつ集中的に治療を行います。日中は主治医や麻酔科医などの集中治療専門医が治療の中心になり、さらに循環器内科や呼吸器内科などの専門医が治療に加わります。夜間も当直医が集中治療室に常駐し、患者さんの急な変化に直ぐ対応できる体制になっていますので、重症の患者さんでも安心して治療が受けられます。



伊勢崎市民病院では、昨年の春から集中治療室（ICU）の増改築工事を行ってまいりました。平成19年3月で工事は終了し、8床のICUが出来上がります。当面は6床で運用していく予定です。心臓や大動脈などの大手術や、高齢者や重篤な合併症をお持ちの患者さんの術後管理をICUで行うことにより、手術がより安全になります。また、心筋梗塞や心不全など重症の循環器の病気の治療も行えるように、循環器集中治療室（CCU）の機能も整備しました。最新の不整脈監視機能を持った心電図モニターや生体監視モニターを導入し、全身状態を持続的に詳しく評価できるようになりました。ベッドサイドでは、特別に集中治療の教育を受けた看護師が、常に患者さんの変化を観察し、異常がある場合は直ぐに処置できるようになっています。最新の人工呼吸器、人工透析装置や血漿交換装置、心肺補助装置を導入し、急性呼吸不全や敗血症などの全身の臓器障害の患者さんの治療を、各科の専門家が集まって治療する体制が整いましたので、よりいっそうの治療成績の向上が期待されます。



経鼻内視鏡検査について …少しでも楽な検査をめざして…

副医療局長兼検診センター長兼介護老人保健施設ひまわり副施設長 松本純一

消化器疾患の検査、治療において内視鏡検査は不可欠です。X線検査（バリウム検査）の代わりに内視鏡検査を行うことで胃癌発見率は向上します。しかし「胃カメラは苦しい検査」というイメージは常にあり、「安定剤を注射してもらったうえで上手な先生にやってもらいたい」という患者さんが多いのも事実です。

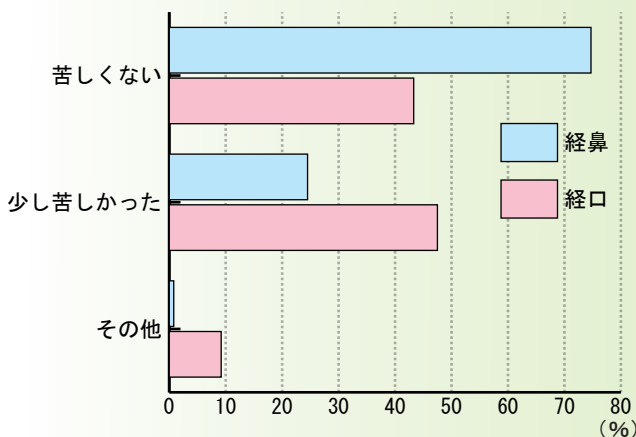
内視鏡検査の一番の苦痛は検査中"ゲゲーする"嘔吐反射で、口から入れたスコープが舌根部に触れることで起こります。経鼻内視鏡検査はスコープを鼻の穴から挿入し、舌根部に触れることなく胃に入ることによって嘔吐反射が起こらず、検査中会話も可能です。

当病院では平成18年2月から二日ドックにおいて経鼻内視鏡検査を実施しています。受診者のアンケート結果では90%以上の方が経口内視鏡より楽だった、次回の検査は経口より経鼻内視鏡検査を選択すると答えています。

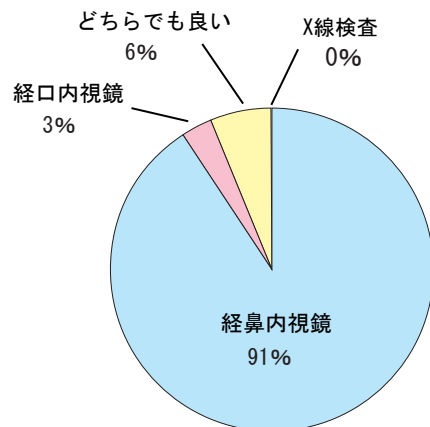
苦痛がなく、安全で正確な検査、名人でなくても楽に出来る検査が開発されることが我々内視鏡医の希望でもあります。

検査後のアンケート

苦痛度の比較



次回の検査は何にしますか？



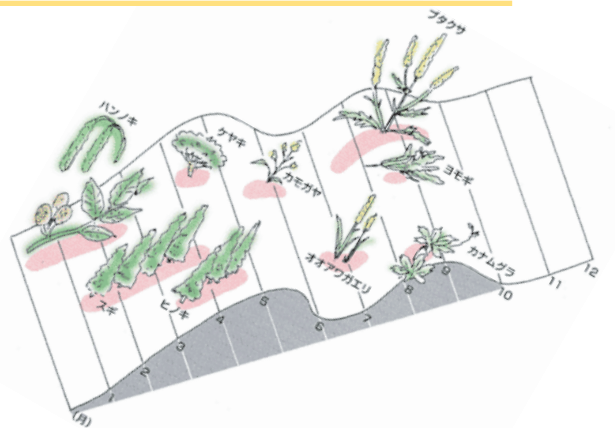
花粉症の原因を知ろう

中央検査科 島村 薫

現在、日本人の約20%の人が花粉症だといわれていますが、花粉症とは、植物の花粉が原因となって、くしゃみ・鼻水・目のかゆみ・なみだ・充血などのアレルギー症状を起こす病気のひとつで、季節性アレルギー性鼻炎とも呼ばれています。主な原因物質は、スギ・ヒノキ・カモガヤ・ブタクサなどの花粉が飛ぶ季節にだけ症状があります。また、通年性アレルギー性鼻炎は、原因物質が一年中あるもので、症状も一年中あり、主な原因は、ダニ・ペットの毛・家のほこりなどです。

当病院では、アレルギー性鼻炎の早期発見・治療の為、これら原因物質を検索する最新の分析機器があり、約60種類の原因物質の検査ができます。当病院では、中央検査科にて、これら分析機器を使い、病気の早期発見に努めています。

花粉症でお悩みの方は、受診の際に気軽に担当医師に相談してみると良いと思います。



褥瘡ハイリスクケアチーム、活動開始しました。

褥瘡ハイリスクケアチーム 周藤浩子

当病院では、医師・看護師・栄養士・薬剤師・理学療法士などをメンバーとした院内褥瘡対策委員会を中心とし、褥瘡対策に取り組んでいます。そして、2007年1月からは「褥瘡ハイリスクケアチーム」が設立され、更なる褥瘡の予防とケアの活動を開始しました。

褥瘡とは、一般的に「床ずれ」といわれ、その名の通り「ずれ」が原因の1つとなって生じます。褥瘡の原因は他にも圧迫や低栄養状態などがあり、当院では体圧分散寝具を導入し、その人に合ったものを選択し使用しています。また、NST（栄養サポートチーム）と協働し、褥瘡治療に必要な栄養状態の改善も行っています。既に入院時に褥瘡のある方もいますが、治療に向けて個別に計画を立て、その人に合ったケアを提供しています。



体圧分散寝具

～地域医療連携室から～

がん診療支援センター



当病院では、平成18年8月24日付けで厚生労働大臣より、『地域がん診療連携拠点病院』の指定を受けました。これに併せて当病院の相談支援センターでは、がん診療の相談について対応してまいります。

ここでは、患者さんやそのご家族が『がん』についての疑問や心配事について、ご相談していただけるよう相談員を配置し、必要に応じて専任のスタッフにおつなぎする体制をとっております。どなたでも無料でご相談いただけ、相談上の秘密は厳守しておりますのでお気軽にご相談ください。

例えば・・・

- 『がん』ではないかと気になるけど、どこで検査をしたら良いのだろうか？
- 今受けている治療のほかに治療法はないだろうか？
- この地域では、どこの病院や診療所がどんな検査や治療をしているのだろうか？
- セカンドオピニオンをしてくれる病院の紹介
- 『がん』の医療費はいくらかかかるの？
- 家族はどんなことをすればいいの？どんなことをしてあげられるの？
- 終末期医療を応援してくれる診療所はどこにあるの？

- ・ 相談日：月～金曜日（祝日は除く）
- ・ 時間：午前9時～午後4時
- ・ 場所：相談支援センター（外来棟1階脳神経外科診察室隣り）
- ・ 電話：0270-25-5022（内線2105）